

群馬県立伊勢崎工業高等学校			学校評価一覧表		(令和6年度版)		(別紙様式)	
羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 各教育活動に満足している生徒が70％以上である。	・ 習熟度別授業、少人数指導を効果的に実施する。 ・ 各種コンテストや地域イベントに積極的に参加する。 ・ 工場見学、高大連携事業や専門学科講師派遣事業、インターンシップ等を実施する。 ・ 授業改善のための校内研修・授業参観等を実施し、授業の質を高める。	A	A	A	① 学校行事全般、生徒は積極的に参加でき、具体的数値目標を達成することができた。91％の生徒が満足していると回答した。 ② 生徒の83％が自分の学校が好きだと回答した。生徒自身の所属する学科、部活、委員会等、学校行事を通して帰属意識を育むことができた。 ③ 全員受験の資格の設定、希望受験の資格の設定を多くしたため、学校全体で多様な資格取得を目指す生徒が多くなった。うち84％の生徒が1つ以上の資格取得ができている。 ④ 96％の生徒が課題研究に積極的に取り組んでいるという結果が得られた。研究テーマの設定をはじめ、主体的・協働的な学習活動になるよう工夫していく。 各科で課題研究発表会も行われ、保護者も参加できる形をとっている。 ・ 次年度も今年度同様に高い生徒の満足度の数値と課題研究を中心とした主体的な学びを拡充していきたい。	①② 授業参観、各種学校行事、研究発表会等では、生徒が主体的に活動できている様子が伺えた。 ③ 資格指導を継続してほしい。 ④ 研究発表会を見て、生徒が自分で考えている内容がとても良く伝わってきた。
		② 「自分の学校が好きだ」と感じている生徒の割合は、80％以上である。	・ 学校行事を通して帰属意識を育む指導をする。 ・ 本校卒業生を招いて講話等を実施する。	A	A	A		
	2 資格取得や検定、総合的な探求の時間（課題研究）などに積極的に取り組んでいますか。	③ 年間を通じて1つ以上の資格取得にチャレンジし、90％以上の生徒が1つ以上の資格を取得している。	・ 授業で資格取得の必要性を説明する。 ・ 指導体制を確立し、計画的な指導を実施する。 ・ 生徒の進路希望に対応した資格取得について指導する。	B	B	B		
		④ 課題研究（課題設定、調査・研究、まとめ、発表等）に主体的に取り組んだと自己評価している生徒が70％以上である。	・ 生徒の自発性・自主性を取り入れたテーマを考えさせる。 ・ 年間の活動計画を立案させ、活動日誌を活用させて計画的に指導する。 ・ 充実した各科課題研究発表会を行う。	A	A	A		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が70％以上である。	・ 指導内容を精選し、わかりやすい授業を展開する。 ・ 教科間の連携を図り、生徒の個性や特徴を踏まえた授業を行う。 ・ 実習等では班別指導を行い、きめ細かく個別指導を行う。	A	A	A	⑤ 88％の生徒が学習指導に満足していると回答した。生徒による授業アンケートのほか、職員研修を複数回実施し、授業改善を図ることができた。 ⑥ 79％の生徒が家庭学習をしていると回答したが、1時間未満が大半を占めているので家庭学習の必要性・重要性を生徒に説諭したり、各教科において適切な課題を準備する。 ⑦ 学習内容を理解している生徒が86％に達した。方策に沿って改善を重ねてきた結果、具体的数値目標を達成することができた。 ・ 次年度は、家庭学習の取り組みせ方などの方策を考えたい。	⑤⑥ 授業はICT機器等用いて工夫していると感じる。家庭での学習環境を学校と家庭で協力してつくっていく必要がある。 ⑦ 生徒がしっかりと授業を受けている印象がある。基礎的基本的な知識・技術、社会人としての基礎知識も習得させられると良い。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習内容の定着を図り、家庭での毎日の学習習慣を定着させ、家庭学習に取り組む生徒が70％以上である。	・ 学校生活に目的意識を持たせ、学習活動や資格取得への取り組みを支援する。 ・ 宿題や課題を定期的に課し、小テストやレポート提出で学習の定着を図る。	A	B	B		
		⑦ 学力の向上を実感している生徒が70％以上である。	・ 授業中の生徒指導を充実させ、授業に集中できる環境を整える。	A	A	A		
		5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 生徒の情報収集や共有する機会を作り、いじめ防止対策委員会を毎月1回以上行っている。	・ 運営委員会や職員会議等で、生徒に関する情報交換といじめに関する情報交換を行う。 ・ 定期的にいじめアンケートを実施する。 ・ 面接週間を設定し、生徒一人一人の学校生活で不安なことなど、情報を収集する。	A	A		
	⑨ 職員、来校者等にあいさつのできる生徒が80％以上である。		・ 毎日の授業の開始、終了時や廊下等で生徒に積極的に声をかけるなど、自然にあいさつができるように働きかける。	A	A	A		
	⑩ 月1回以上、校内の安全点検を実施し、環境の整備に努めている。生徒は校内の清掃活動に毎日取り組んでいる。		・ 校内安全点検表を活用し、清掃指導時など日頃から環境整備に対する意識を持たせる。 ・ 日々の清掃活動を積極的に行える体制をつくる。	A	A	A		
6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 教育相談（スクールカウンセラー）に相談を希望している生徒は100％相談できている。	⑪ 各クラスの担任を経由して相談者の時間表を作り、効率よく相談できるようにする。 ・ 通級を許可された生徒は100％専門指導員から支援を受けられるようにする。	A	A	A			
		⑫ いじめ防止を理解している生徒が70％以上である。	・ 生徒総会において、いじめ防止宣言を行う。 ・ 情報モラル講習会などにより、SNSやインターネットの危険性や正しい利用方法などについて学ばせる。	A	A	A		
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ いじめ防止活動に取り組んでいる生徒が70％以上である。	・ 生徒会役員による「あいさつ運動」を定期的に実施する。 ・ 各クラスにおいて、いじめについて考えたり、話し合ったりする機会をつくる。	B	B	B		
		⑭ 家庭との連携を図りながら、生徒の欠席・遅刻をしないよう指導し全校で1日当たりの欠席者を6名以下、遅刻を10名以下にする。	・ 欠席、遅刻、早退の情報を共有し、学年、教育相談係、各科、家庭との連携を図り該当生徒への指導を適宜行う。 ・ 部活動への積極的な参加を推奨し、学校の活性化や生徒の健康増進に努める。 ・ 全職員で年間を通して登校時指導を実施し、遅刻の防止を呼びかける。	B	B	B		
		⑮ 規範意識を持っている生徒が80％以上である。	・ 登校時指導、SHR、授業前など身だしなみ指導を継続して行う。 ・ 年5回の頭髮・服装点検を全職員で実施し、指導を必要とする生徒に対し、家庭と連携をしながら改善指導を行う。 ・ マナーアップ運動を実施し、保護者と協力して生徒の規範意識を向上させる。 ・ 生徒が主体となって校則の検討・見直しを行い、自分事として考えルールを遵守させる。	A	A	A		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路関連行事やガイダンスを年4回以上実施する。	・ 入学から卒業まで、各学年で継続的かつ段階的に進路関連行事やガイダンスを実施する。	A	A	A	⑯ 生徒の進路希望に合わせた進路ガイダンスを全学年において複数回実施した。 ⑰ 方策に沿って行事等を実施すると共に、進路に関する情報を提供してきた。進路に関する配布物に関しては86％の保護者が目を通してしていると回答した。 ⑱ 進路指導部、学年・各科との連携を強化し、多様化する生徒への指導を行った。各科でも社会人講師を呼んでの講演や、インターンシップを大半の生徒が経験している。進路実現に向けて86％の生徒が積極的に取り組んでいると回答した。 ⑲ 各種適性検査・面談などを通じて、多くの生徒が自己の適性を理解してきている。自己の適正については、78％の生徒が理解していると回答した。また、2年生全員を対象に3日間インターンシップを実施することができた。 ・ 自己の適正について考える場面を多く設け、適切な進路実現に繋げられる方策を考えたい。	⑯⑰ 進路指導について、中学校の進路指導の先生や中学生の親御さんに高卒就職のメリットをしっかりと伝えてもらいたい。 ⑱⑲ インターンシップを2学年全員で行ったのは良い。積極的に進めてほしい。
		⑰ 学校からの進路に関する配布物に目を通している保護者が70％以上である。	・ 「進路ニュース」を年間3回以上発行するとともに本校Webページに進路情報を掲載し、保護者に発信する。	A	A	A		
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑲ 進路実現に積極的に取り組む生徒が70％以上である。	・ 学年と進路指導部の連携を強化し、進路講話等で進路に対する意識を高める。 ・ 「自己の生き方」と「将来の職業」について考えさせ、進路選択の方法や進路実現のために準備すべき事を考えさせる。 ・ S P I対策テスト、基礎力診断テスト、クレベリン検査を実施する。 ・ インターンシップを積極的に進め、勤労観や職業観を育成する。	B	A	A		
		⑲ 自分の適性を理解している生徒が80％以上である。	・ S P I対策テスト、基礎力診断テスト、クレベリン検査を実施する。 ・ インターンシップを積極的に進め、勤労観や職業観を育成する。	B	B	B		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ 学校の教育活動を人々に理解してもらうために「学校公開」を年3回実施している。	・ P T A総会に合わせて保護者対象の授業公開を実施する。 ・ オープンスクールを見学型、体験型の2回実施する。 ・ 10月に一週間、学校公開を実施し保護者や地域の人たちに授業公開を実施する。	B	B	B	⑳㉑ 生徒の進路希望を達成するために地元企業等との連携を深めてほしい。 ㉑ まちなかイルミネーションなど、地域に根ざした活動ができている。新聞や広報など、伊工の記事を多く目にした。ホームページなどもさらに充実させて欲しい。	
		㉑ 各工業科の特色を生かした取り組み、地域の小・中学校に対する広報活動、新聞を活用した広報活動を10回以上行う。	・ 新聞や市の広報誌への情報提供、地域のイベントや外部のコンテストまたは大会へ積極的に参加する。	A	A	A		
		㉒ 「学校の様子がよく分かる」と、保護者の70％以上が答えている。	・ ホームページが最新の情報となるよう更新を怠らない。また、オクレンジャーを活用して積極的に保護者に情報発信する。	A	A	A		
		㉓ I C Tを活用した授業ができると答えた職員が70％以上である。	・ 職員は、情報化推進委員会を中心に校内研修・研究授業等でI C Tの効果的な活用方法を学ぶ。 ・ 学習用端末（Chromebook）を組織的に授業に活用する。	A	A	A		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 I C Tを活用した指導を行っていますか。	㉔ I C Tを活用した通知に生徒・保護者の70％以上が満足している。	・ 学校からの通知、アンケートのペーパーレス化を図るとともに、アンケートへの回答率を高める。	A	A	A	㉓ 生徒の発表にもI C T機器を有効活用できていた。継続してほしい。 ㉔ さらなる取り組みを期待している。	
	12 I C Tを活用した業務改善を行っていますか。							